

— 2019年10月20日（日） —

コースレポート No.3

【概要】

10月20日（日）高校生23名、講師10名合計33名の参加により第16回「ありみね高校生学びの森(3回目)」を実施しました。心配していた雨も上がったものの終日曇り空で肌寒い日となりました。生徒を乗せたバスは予定通り有峰に10時に到着しビジターセンター内で「始まりの会」を実施しました。

吉江次長の挨拶に始まり、堺講師より本日の活動スケジュールについて説明を受け、さっそく宝来島対岸の目的地である有峰湖畔に移動しました。ここではまず水質調査、魚類調査及び動物の痕跡調査を行いました。水質調査では簡易式のパックテスト法によるCODの測定を行いました。（パックテストとはチューブに入っている過マンガン酸カリウムが水中の有機物等と酸化還元反応をすると過マンガン酸イオンの色が変化する事を利用した水質検査方法）、当日は気温12.3℃、水温13.4℃でチューブに湖水を入れて5分30秒後の色変化を見た結果色見本の6～8の間の判定となり、ほぼきれいな水質であることが分かった。また、水質PHは6.8とほぼ中性であった。次に堺講師より有峰湖に生息する魚類の種類の解説があった。有峰湖に生息する魚類はイワナ、ウグイ、ワカサギ、ドジョウ、コクチバス、トミオ等であることが分かった。この後、みんなで網を持ち捕獲作業を行ったが、この日採取できたのはイワナ1匹のみであった。約1時間で水質調査、魚類調査を終え、バスで移動し、冷た谷キャンプ場で昼食をとった。昼食後は東西半島遊歩道へ移動。氷見講師指導のもと東西半島遊歩道の植生調査に入りました。半島入口部（記念碑広場）では猪がエサ（ミミズ？）を求めて土を掘り返した痕が、広範囲にあり、遊歩道のいたる所には熊が折ったと思われるミズナラの枝が散乱していた。またミズナラの樹上にはいたるところに熊棚があり、幹には熊の爪痕が数多く確認出来た。また熊の排泄物も沢山観察出来た。講師より東西半島に見られる五葉松（葉の数5枚）赤松（葉の数2枚）、コメツガ等の解説があった。また豪雪地帯に多く見られるマンサクについての説明もあった。マンサクは枝がしなやかで簡単に折れないことから、輪カンジキの材料として古くから使われてきた。この後、猪根平に戻り自動赤外線カメラの回収の為、旧有峰ハウスへ移動。カメラの回収は福田講師の指導で1個目は猪根山遊歩道を上がってすぐにある水源地に設置してあった。ここの場所を選んだ理由はいろんな動物が水を飲みにくるであろうという想定で設置したとの事。2個目は芝生広場奥（猪根山麓）にセット、ここはすぐ横に電柵が設置してあり電柵を回避した動物が映るのではとの想定で設置したとの事。3個目は県庁舎裏、ここは福田講師が単独で回収。その後、有峰記

念館3Fに移動しカメラに記録されている映像確認し福田講師より解説があった。まず芝生広場奥のカメラでは熊、猿、ヤマドリ。猪根山水源地のカメラでは熊、猿、カモシカが確認出来た。県庁舎裏のカメラでは熊が1回のみ確認できたがカメラ上部に設置した合板が折損した為か、その後の画像は確認できなかった。

この後は生徒による感想文作成、堺講師による総括、最後に有峰森林文化村吉江次長の挨拶で第16回「ありみね高校生学びの森」を終了しました。